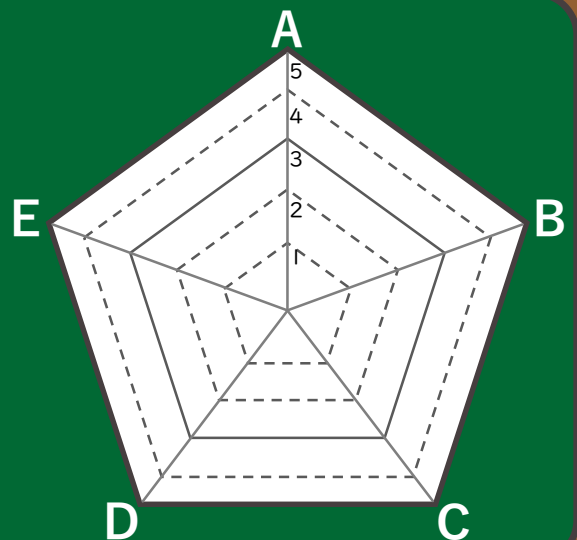
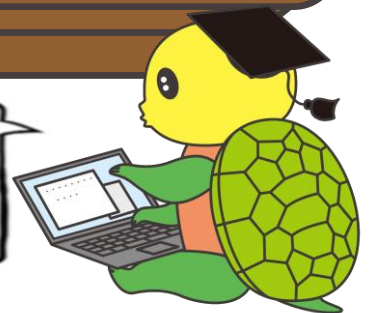


# 中学校初任者のための 授業づくりガイド

- A) 資質・能力の育成を目指している
- B) 担当教科の目標を理解している
- C) 担当教科の指導内容を理解している
- D) 学習の過程を重視した授業づくりを行っている
- E) 学習評価の充実を意識している



黒板のA～Eについて5段階で自己評価して、右図のチャートに記入してみるッタ



授業づくりの基本について → P1

単元計画について → P3

授業計画について → P5

# 創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、「生きる力」を育成します

授業づくりを行うにあたっての重要な視点（A～E）をご紹介します。

## A 指導を通して資質・能力を育成します

豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される生徒に、**生きる力を育む**ために授業を行います。授業では、指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図ります。

## B 担当する教科等の目標を理解します

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の**主体的・対話的で深い学び**の実現に向けた授業改善を行います。特に、生徒が教科等の特質に応じた**見方・考え方を働かせながら**、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう**過程を重視した学習の充実**を図ります。

## C 担当する教科等の指導内容を理解します

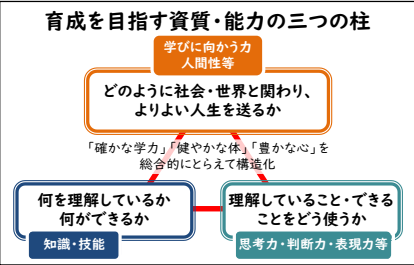
単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、その**まとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加え**、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導ができるようにします。また、各教科等及び各学年相互間の関連を図り、**系統的、発展的な指導**ができるようにします。

## D 学習の過程を重視した授業づくりを行います

各教科等で資質・能力を育成するために、教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせ、学習の過程を重視した授業づくりを行います。その際、**指導計画の作成と内容の取扱い**を確認します。

## E 学習評価の充実を意識して指導計画を作成します

学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたかについて、評価規準に照らして観察し、毎時間の授業で適宜指導を行うことは、育成を目指す資質・能力を生徒に育むためには不可欠であり、**いつ、どのような方法で**、生徒について観点別学習状況の評価するための記録を取るのかについて、評価の計画を立てます。評価の計画を立てるときには、**生徒全員の学習状況を記録に残す場面を精選**します。



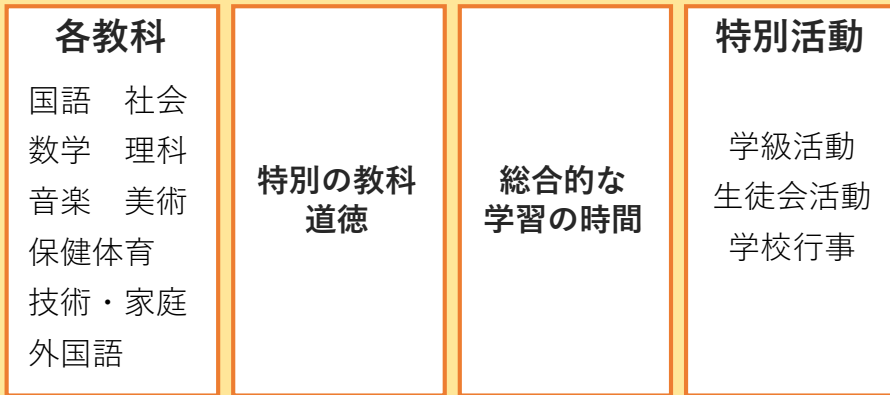
「生きる力」をより具体化した、資質・能力の三つの柱

- ア) 生きて働く「知識・技能」の習得
- イ) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ウ) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

## 学校教育目標 ※1

※1  
各学校は、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえて、各学校の教育目標を明確にしています。

## 教育課程 ※2



※2  
各教科、道徳科及び特別活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければなりません。

組織的かつ計画的な教育活動

## 年間指導計画



## 生徒の発達を支える指導の充実

### 【学級経営の充実】

- 主に集団の場面で必要な指導や援助を行う**ガイダンス**
- 個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人ひとりが抱える課題に個別に対応した指導を行う**カウンセリング**

### 【生徒指導の充実】

- 生徒が、**自己の存在感を実感**しながら、よりよい人間関係を形成
- 現在及び将来における**自己実現**を図る

### 【キャリア教育の充実】

- 生徒が、**学ぶことと自己の将来とのつながり**を見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付ける
- 特別活動を要**としつつ各教科等の特質に応じる

### 【個に応じた指導の充実】

- 個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動
- 教師間の協力による指導体制を確保

# 単元計画（国語科）

子どもたちに身に付けさせたい資質・能力を明確にし、そのための指導と評価が一体化している単元を構想します

## 1 単元の目標を作成します

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成します。
- 生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成します。

## 2 主な言語活動（国語科の場合）

- 単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付けます。

## 3 単元の評価規準を作成します

- 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて作成します。

## 4 「指導と評価の計画」を作成します

- 1～3を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画します。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりします。

## 5 授業後に観点ごとに総括します

- 4に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげます。
- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行います。



単元名：『さんちき』の描写から人物像、相互関係、心情の変化を読み取る

### 1 単元の目標（ねらい）（身に付けさせたい力）

- 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(1)ウ
- 登場人物の人物像、相互関係、心情の変化について、描写を基に捉えることができる。C(1)イ
- 言葉が持つ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

### 2 本単元における言語活動

描写から読み取った人物像や相手への思いについて、意見交換すること等を通して理解を深める活動。

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ	「読むこと」において、人物像、相互関係、心情の変化について、描写を基に捉えている。C(1)イ	語感を磨き語彙を豊かにし、登場人物の心情、人物像、関係性を捉えることについて、本文の描写や意見交換を通して、理解を深められるよう粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。

### 4 単元の指導と評価の計画

a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

次	時	学習活動	a	b	C	評価規準（評価方法 等）
1	1	○学習の見通しを立てる。 ・単元の目標について確認する ・学習活動の流れを理解する ・本文を通読する ・意味調べ・新出漢字の確認をする ・物語の概要を理解する				
2	2・3 (本時)	○「親方」の人物像について、描写を手掛かりに考える ・親方の肩書を資料や辞典等を参考に考える ・考えた内容を班で共有し意見交換する ・班員の意見を踏まえて、改めて親方の肩書を考える		○		b 人物像、相互関係、心情の変化について、描写を基に捉えられている。(ワークシート)
3	4・5	○親方の話を最後まで聞いた後に「さんちき」の字を見た三吉の心情を考える ・個人で考えた内容を班で発表し意見を交換する ・全体で共有する ○今回の単元で扱った言葉の意味や活用の仕方についてテストする ○単元を振り返る	○		○	a 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して活用することで、語彙を豊かにしている。(テスト)  c 登場人物の心情、人物像、関係性を理解するために、粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。(ワークシート)

# 国語科における 単元づくりのポイント

## 【単元名】

単元名＝教材名ではなく、どのような資質・能力を育成するためにどのような言語活動を行うのかが分かるように工夫します。

## 【単元の目標】

(1)・(2)は学習指導要領に示された指導事項を選び、文末を「～できる」として示します。(3)は学習指導要領に示された各学年目標から(3)のうち「言葉がもつ価値～伝え合おうとする」までを引用します。

## 【単元の評価規準】

- 〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している。」として作成します。
- 〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明記し、文末を「～している。」として作成します。
- 〔主体的に学習に取り組む態度〕は以下の①から④の内容を全て含め、文末は「～しようとしている。」として作成します。

- 粘り強さ
- 自らの学習の調整
- 他の2観点において重点とする内容
- 当該単元の具体的な言語活動

## 【学習評価の二つの側面】

- 指導に生かす評価…目標に照らし、生徒の学習状況を分析的に捉え、その結果を指導の調整や改善に生かす評価を日々の授業で行います。
- 記録に残す評価…積み重ねた指導と評価の結果として、生徒の学習の実現状況を把握し、観点別学習状況の評価として記録します。実現状況を把握できる段階で行います。



本時の授業案（国語科）

身に付けさせたい力が身に付くように、本時の学習活動を計画する

ワークシートの工夫（例）

- ・ワークシート一枚で学習のねらいや流れ(学習活動)が分かる。
- ・単元を貫く問いや主体的に学習に取り組む態度を見取るための問いを設定する。

1 時間の授業案を計画

1 導入

- ・本時の目標、学習課題をつかみ、本時の見通しをもつ。
- ・資料等から学習に対する興味・関心を高める。

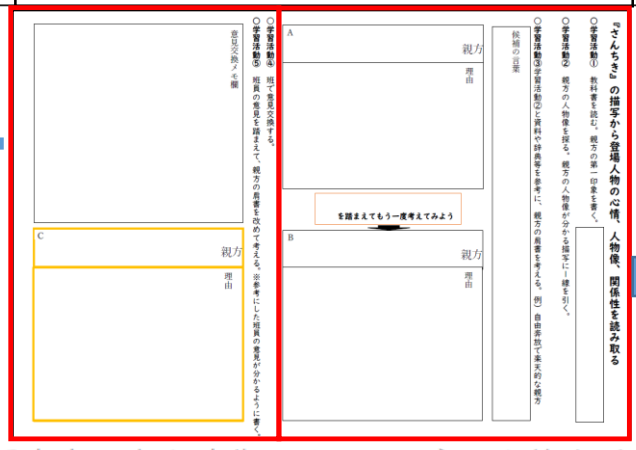
2 展開

- ・本時の学習活動を通して、本時で身に付けさせたい力を身に付ける。
- ・教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる活動をする。
- ・個別学習、グループ学習等を通して、主体的・対話的に学ぶ。

3 まとめ

- ・本時の目標に対して、分かったこと、できたこと、課題など、次の学びにつながるように、言葉でまとめる。
- ・学習の中での自身の変容や気づきを、言葉で振り返る。



第2時	学習活動	時間	◆指導上の留意点 ◇評価（評価方法）【観点】
導入	○前時の振り返り、本時の目標を確認し、本時の見通しをもつ。	5分	第2次(第2・3時)のワークシート
展開	○学習活動① 教科書を読む。親方の第一印象を書く。	10分	
	○学習活動② 親方の人物像を探る。親方の人物像が分かる描写に一線を引く。	10分	
	○学習活動③ 教科書本文と参考資料や辞典等を用いて、親方の肩書を考える。	20分	
まとめ	○学習した内容を振り返り、次の学習につなげる。	5分	◆親方の人物像について、新たな気づきや見方の変化があったかを振り返らせる。
第3時	学習活動	時間	◆指導上の留意点 ◇評価（評価方法）【観点】
導入	○前時の振り返り、本時の目標を確認し、本時の見通しをもつ。	5分	
	○学習活動④ 考えた内容を班で共有し意見交換する。	20分	◆各班ででた意見は Chromebook を活用して、全体で共有できるようにする。
	○学習活動⑤ 班員の意見を踏まえて、親方の肩書を改めて考える。	20分	◆参考にした班員の意見が分かるように書くよう指導する。 ◇人物像、相互関係、心情の変化について、描写を基に捉えられている。(ワークシート) 【思考・判断・表現】
まとめ	○学習した内容を振り返り、次の学習につなげる。	5分	第2時・第3時の学習を通しての自身の考えの変容や深まりについて振り返る。

第2時

親方  
理由

本時の課題

を踏まえてもう一度考えてみよう

親方  
理由

本時の課題について、考えを深めるために、視点を変えたり、焦点化したりする。

○学習活動① 教科書を読む。親方の第一印象を書く。

○学習活動② 親方の人物像を探る。親方の人物像が分かる描写に一線を引く。

○学習活動③ 教科書本文と参考資料や辞典等を用いて、親方の肩書を考える。例) 自由奔放で楽天的な親方

候補の言葉

第3時

意見交換メモ欄

他者の意見を聞いてメモする

生徒が本時の学習活動を通して、考えがどのように変容したかを見取る。

親方  
理由

○学習活動④ 班で意見交換する。

○学習活動⑤ 班員の意見を踏まえて、親方の肩書を改めて考える。※参考にした班員の意見が分かるように書く。